



看護大学での学び



新入生のみなさん、入学してから3ヵ月が過ぎようとしています。大学生活にも慣れてきて、授業やサークル活動などに積極的に参加している時期だと思います。また、一人暮らしの学生は、自分の生活リズムがつかめてきた頃だと思います。大学での新しい仲間との出会いや先輩との関わりも増えてきて、充実した学生生活を送っていることでしょう。6、7月になると、それぞれの科目でテストがあり、勉強方法などで不安を抱えたと思います。高校時代のような復習用の問題集がないため、大学での勉強方法がわからず戸惑った学生も多いと思います。私が1年生の頃は、ひたすら授業で配布された資料や教科書を読み返していたことを覚えています。授業や勉強、進路など、学生生活で困ったことがあったときは、友達同士で助け合い、遠慮なく先輩に相談してください。また、私はオフィスアワーを活用してほしいと思います。先生方は親身になって話を聞いてくれますし、先生方と関わりがあると、より学生生活が楽しくなると思います。

1年生はこれから試験の日々が続くと思いますが、試験が終わる

と夏休みやふれあい実習、大学祭などがあります。皆さんは夏休みどのように過ごしますか。友人と思いきり遊んだり、地域の行事に参加したり、すでに予定を立てている人も多いのではないのでしょうか。1年生の夏休みは、ぜひ、いろいろなことに挑戦してほしいと思います。ボランティア活動や様々な体験活動など、長期休暇を上手に利用して普段ではできないことに挑戦してみましょう。また、私はたくさんの本を読んでほしいと思います。読書から意思疎通に必要な多くの言葉や情報を得ることができると思います。1年次に行なわれるふれあい実習では、地域の方々たくさんふれあい、多くのことを感じ、経験してきてください。この実習での経験が、今後の学習や病院実習で重要になると思います。秋には大学祭である桜蓮祭があります。生徒主体となって行い、毎年多くの方々に来ていただいています。学生全員が参加できるよう、様々な企画があるので、サークルに入っていない人もぜひ参加してください。

勉強や演習、実習で忙しい看護学生ですが、その中で同じ夢を志す仲間と協力しながら、学生である今でしかできないことにチャレンジしてみるのが良いと思います。看護大生として誇りをもち、大学生生活をよりよいものにしていきましょう。

もくじ

- 1 看護大学での学び
- 2 学外オリエンテーション
- 3 大学院に入学して
卒業式・学位授与式
看護研究発表会・修士論文発表会

- 4 ホーチミン医科薬科大学研修について
実習懇談会について
- 5 新任教員紹介
- 6 新任教員紹介
実習助手紹介
看護大学の力強い応援団、振興協力会！！

- 7 事務局新職員の紹介
科学研究費採択状況
- 8 オープンキャンパスについて
いきいきサロン
編集後記

学外 オリエン テーション

Starting college is a big thing. It is a new stage in life, and it is both exciting and scary. Every year, new students come to our college full of hope. They hope to meet new people and learn new skills that will help them reach their goals. The Off-campus Orientation program is designed to give students a fun and relaxed way of meeting their new friends and classmates who will support them through their college life and into the future.



まだ入学して間もない時期に、1泊2日で黒姫へ学外オリエンテーションに行ってきました。行く前は初対面の人ほとんどで不安でしたが、最終的には楽しい思い出になりました。1日目はランダムに振り分けられた仲間とインディアカという競技をしました。最初は緊張気味でしたが、段々緊張がほぐれ皆笑顔で活動できていたことを覚えてます。また、同じ部屋になったメンバーとの帽子作りは、メンバーと話すきっかけになり、自然と会話が弾みました。学年集会での他己紹介はおもしろ

いものばかりで今でも印象に残っています。自由時間が多くとってあり、ほかの部屋の人とも交流を持つことができました。2日目には、先輩方から大学生活について、生活面や勉強面など多面的に教えていただきました。まだわからないことが多くあった私たちにとって、有意義な時間となりよかったです。

学外オリエンテーションでの交流が日々の大学生活をより良くしてくれているのでこの体験にとっても感謝しています。

4月に行われたオリエンテーションに在校生として参加させていただきました。大学生活が始まったばかりの1年生は、勉強やサークル活動、一人暮らしに沢山の期待や不安を抱いている様子があり、2年前の自分を見ているようで懐かしく思いました。

看護職を目指すため、習得しなければならない知識や技術は山ほどあり、時には弱音を吐きたくなる時もあるかもしれません。しかし実習では、習得した知識や技術を生かしながら患者さんと関わることがで

き、達成感や充実感を得られると思います。また、大学の行事やサークル活動では同学年だけでなく他学年など様々な人と交流することができます。先輩からアドバイスをいただいたり、同学年の仲間と励まし合い切磋琢磨するなかで人とのつながりを強く感じると思います。やりたい事、やるべき事に追われ、学生生活はあっという間かもしれません。勉強は勿論ですが、沢山のひとと出会い様々な経験をして楽しいキャンパスライフを送ってください!



入学した次の日に1泊2日の学外オリエンテーションがありました。1日目、午前中は授業を受けて、午後はまずインディアカをしました。インディアカはみんながやったことがなかったので相手コートに返せるだけでもとても盛り上がりました。初対面の人とも互いに協力し合うことですぐ仲良くなれました。その後、宿泊施設に移動して、同じ部屋の人と帽子を作成したり、他己紹介をしたりしたことで楽しみながら交流を深めることができたと思います。2日目は、先輩方から大学生活の事に

ついていろいろ聞きました。勉強やバイト、一人暮らしなど自分が不安に思っていることについて質問すると、先輩方は親身になって答えてくださいました。なので、大学生活がより楽しみになりました。

最初はまだ全然知らない人達とうまくやっていけるか心配でしたが、そんなことを考える暇がないくらい楽しく過ごせました。学外オリエンテーションはたくさんの人と関わるいい機会だったと思います。

先日行われた学外オリエンテーションでは、新入生に本学での生活について学業から私生活まで幅広い話を公私交えながらお話させていただきました。4年間という長いようで短い月日の中で、色々なことに興味を持ち挑戦し、また色々なことに失敗することだと思います。一コマ90分に及ぶ講義や、朝が早くて寝るのは遅い臨地実習など、これから様々な学業に直面していくわけですが、みなさんほどのような大学生活を送られるでしょうか。これから学ぶ看護

師ってどんな仕事だろう、そもそも看護って何だろう、自分はどのような看護師になりたいのだろうかーヒトとヒトとが関わる看護師という仕事で、「その人をわかってあげられる」存在になるためには豊富な経験が必要かもしれません。より豊かな感受性を養うためにも、先のことは恐れずに沢山のことに挑戦し、またそれを共有できる友を見つけられるよう応援しています。



大学院に入学して



私は、東京都で看護師として臨床経験を経て、看護専門学校で教員をしていました。業務の傍らの研究活動はしましたが、大学院でさらに学びたいと思いながら過ごしていました。昨年、この上越市へ引っ越すことになり、新幹線開通と共にターンでまいりました。生まれてこのかた東京を離れたことがないことと、長年勤めあげた仕事を辞めるのは寂しい思いがしましたが、その反面、今まで頭の片隅にあった大学院への進学をチャレンジする機会を得ることができました。昨年は、短期間ですが本学の実習助手をさせて頂き、改めて実践の場の楽しさや、生涯学習の必要性を実感しました。

教員時代には老年と在宅看護を主に担当し、自身の日々の指導方法や看護現場での疑問点を感じることがありました。中でも在宅看護において、自分自身が広い視野で地域を捉える必要

性を感じました。そこで、地域看護領域を専攻し、在宅看護においての利用者や家族への看護の役割をさらに追究したいと考えました。

大学院の授業は、講義のテーマに対し文献を調べ、プレゼンテーションをする形式が主です。調べ学習だけでは、知識の上辺をたどるだけで、自分の知識不足、視野の狭さを感じる事がしばしばあります。しかし、今ここでそのことに気づくことができ、これまでの自分を振り返る良い機会となりました。

私たち院生1年生は5名で、各々専攻の領域が異なります。そのため、専門科目は先生方がマンツーマンあるいは複数で担当して下さるので、贅沢の極みに感じます。日々たくさんの刺激を受けながら、先生方と同期の院生とのディスカッションや助言により新しい視点を知ることができ、士気が高まります。視野を広げ、自分の取り組みたい研究テーマを絞り、大学院での貴重な時間をより有意義に過ごせるようにしていきたいと思っています。

卒業式・学位授与式

平成28年3月10日に本学の看護学部の学生95名が卒業し看護職への道を歩み始めました。また、看護学研究科大学院生7名が大学院を修了し看護の専門性を高めてそれぞれの道を歩み始めました。みなさんおめでとうございます。



平成27年12月22日に看護研究発表会が行われました。また、平成28年3月4日に大学院修士課程学位論文発表会が行われました。学部生は初めての研究に取り組み、まとめた研究について真剣に発表していました。大学院生もまた、高度な研究に取り組み成果を発表しました。多くの方に聞いていただける貴重な機会でした。



看護研究発表会・修士論文発表会



ホーチミン医科薬科大学 大学研修について



2016年3月、ホーチミン医科薬科大学とチョーライ病院を訪問し、演習・実習への参加、大学紹介プレゼンを行ってきました。大学の演習を見学して印象に残ったのは、骨折などの応急処置の際、どこにでもあるもので処置できる技術を身につける、ということです。

ベトナムはバイク社会で日常的に交通事故が発生し、演習では交通事故に遭って骨折した人の処置を行うという状況を設定して行われていました。

その際、自転車のチューブを使って骨折箇所を固定するなど、どこでも入手しやすい物で処置できる技術が紹介されていました。ベトナムではどこにいても交通事故に遭いやすいという事情や、地方に行けば行くほど物資が乏しいという状況があります。そのため、どこにいても、その場にあるもので処置ができるという技術が要求されるとのことです。

このように大学の演習でもベトナムの事情を踏まえた実践的な内容になっていることが印象的でした。



ホーチミン医科薬科大学の 研修に行ってきた

今年の3月にホーチミン医科薬科大学とチョーライ病院へ行き、滅多にできない貴重な経験をさせていただきました。病院内の人の多さや環境、家族の役割、プライバシー保護の観点、看護学生さんの実習など、多くの面において日本とは異なっていました。日本のものがすべてではなく、それぞれの国にはそれぞれの“看護”があるということを学びました。また言語が通じない患者さんや家族とのコミュ

ニケーション方法についても考えさせられ、学ぶことができました。

ベトナムの人々は私が微笑むと微笑み返してくれる、とても温厚な方たちばかりでした。同年代の看護学生さんや、患者さん、家族、大学の先生方、ドクター、タクシーやバスの運転手の方、車の窓越しに目が合ったバイクに乗っていた親子。たくさんの素敵な出会いがあり、出会いの楽しさを改めて感じました。

今回の交流を経て、将来の視野が広がり、国際看護への興味がより強くなりました。チョーライ病院で見た光景、感じた思いを忘れずに今後の学習に活かしていきたいです。

今年も、5月25日に実習懇談会が開催されました。今年度は実習施設と大学関係者を合わせて103名の出席があり、多くの方に参加していただきました。

実習懇談会は、3部構成で行われ、第1部では臨床講師委嘱状交付式、第2部では昨年度の実習報告および本年度の実習予定の説明、第3部では領域ごとに実習施設の方々との懇談が行われました。

学生のみなさんが実習しやすい環境となるよう、実習施設の代表者と懇談する大切な時間となりました。



実習懇談会に ついて



新任教員 紹介



4月1日より、学長補佐(博士後期課程開設準備担当)という立場で着任しました高橋照子と申します。主に設置準備にかかわり、修士課程の「看護理論」以外は、院生や学部生の方たちとの接触はあまりありませんが、いつでも何でも声をかけてください。

専門は「理論看護学」で、一番敬遠されそうな分野ですが、要は、看護という諸現象を理論的に考えていこうとする分野で、あまりまだ専門とする人も少ない分野といえます。ということは、何でも関心のあることを自由に追求していけるということでもあります。そして、本来的には、看護職になるための誰にとっても、理論看護学と関わりなしには進めないはずです。

私は看護学生時代を、学生運動のはなばなしの中で育った団塊の世代ですから、経験

主義的な自分の受けた教育に不満をつのらせていました。その時に、「理論なき実践は盲目であり、実践なき理論は空虚である」との言葉を聞いた時、胸のつかえがとれたような爽快な気分になったことを今でもよく覚えています。“超”のつく生意気な学生だった私は、結局は看護理論に関心を持ち、理論看護学をやっていく羽目になったということです。

当時の日本には看護学の修士課程がなかったために、立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻という形で修士号を取り、博士号は、英語嫌いをとるためにもと、シカゴにあるイリノイ州立大学大学院看護学研究科で取りました。その間に、内科・結核病棟で看護師として約3年間、修士課程修了後にやっと「理論なき実践」とならない多少の自信がついて、精神科病棟に2年間勤めました。その後は、時代的要請もあり教員生活に入っています。

東京生まれの千葉県育ちで、名古屋・赤穂・徳島をはじめ各地で勤務し、引越し好きですが、この地に着任して、自然の豊かさ、野菜・魚・お米・お酒等々のおいしさに魅了され、楽しみながら生活しています。私自身と夫の父方の郷里である新潟県で勤務できるのも何かの縁かな、などと考えています。学部生や院生、そして若い先生方が、のびやかに成長するのを助けることができると願っています。どうぞ、よろしく願いいたします。



はじめまして。中村義実と申します。出身はここ上越市で、久方ぶりに地元に戻ってまいりました。大学卒業後、埼玉県で高校教員を勤めたのち、ワシントンのジョージタウン大学大学院に留学しました。異文化理解をテーマにした研究を行うとともに、ハーワード大学で日本語教育に携わりました。帰国後は、新発田市の敬和学園大学に長年籍を置いていました。この4月より、県立看護大学で働かせていただくことになり、私にとって、また新たな挑戦が始まりました。

看護学は「人間」を対象とする、という点においてこれまでの私の研究分野と重なります。国際化が急速に進む日本社会において、看護の世界は今、グローバル化への対応を迫られています。言葉の壁の克服はもとより、お互いの考え方や文化の違いを認め合う姿勢、さらには、日本人の文化や社会の仕組みをわかりやすく他者に説明でき

る能力が今後さらに問われていくでしょう。

県立看護大学においても、近年、ベトナムの大学や病院と交流協定を締結し、国際交流活動が年々活性化しています。先日もベトナム看護実習に参加した2名の学生のプレゼンテーションを聞く機会がありました。異文化体験を通して、専門の学びのみならず、文化や社会の多様性に目を開き、人間的に成長する姿が伝わり、とても頼もしく思いました。若き日の国際交流は、自身の視野を広げるとともに、将来の可能性を掘り起こす貴重な機会にもなります。

看護学部にはふさわしい英語教育の実践、さらには看護教育の国際化、優れた国際感覚を持つ看護師の養成に、微力ながらも、貢献できればと念じております。上越市を郷土とする人間の一人として、地域の皆様方との交流を深めていくことも楽しみにしております。「足下に泉あり」を信条にして、私にできることから精一杯取り組んでゆक्तつもりです。どうぞよろしく願いいたします。



この4月に着任いたしました河原畑と申します。いつも出身は?と聞かれると困ってしまいます。生まれは福岡県ですが、父親の転勤によって埼玉、奈良、東京で育ちました。また看護師になってからは東京医科大学病院で10年以上勤務しましたが、大学院進学のため岐阜県に移り、教員となって横浜、宮城で勤務しました。今回ご縁があって初めての新潟県に参りました。新潟県は自然が豊かで本当に美味しい食べ物に恵まれていると感じています。

前任校の宮城大学に着任して1年後、東日本大震災がありました。震災後5年が経ちますが、沿岸部の復興はまだまだで多くの方々が仮設住宅で暮らしています。熊本でも震災がありました。自然の力は私たちにとって大切な恵みを与えてくれるとともに一瞬にして多くの大切な命さえも奪ってしまう恐ろしさもあります。人間の力で

はコントロールできないものですが、備えやその後の対処など、少しでも被害を軽減するといった「減災」ということが重要なのかと思います。本学は指定緊急避難所の役割もあるということで、宮城での被災体験を活かして微力ながらも貢献できればと思っております。

上越市はすでに人口が減少しつつありますが、今後は全国的にもますます少子高齢化が進み、多死社会に突入します。一人ひとりの高齢者がその人らしく生き、その人らしく人生を終うことができるよう、看護職の皆様、教員、学生とともに課題に取り組んでまいりたいと思います。2025年、2035年問題と様々な問題が予測されておりますが、保健医療福祉のそうした厳しい状況の中、現在の学生たちは現場で中心的なリーダーシップをとっていく年代にあります。この時代を生き抜くには、頑丈な強さではなく、折れない「しなやかさ」と言われています。そんなしなやかな看護職を育てたいけるよう、卒業するまで、また卒業後も精一杯支えていければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



4月1日付けで、准教授に着任いたしました川野英子と申します。地域看護学を担当いたします。私の出身は福島県の福島市です。花見の名所であり、「福島に桃源郷あり」ともうたわれる花見山公園があります。着任そうそう、桜の名所で名高い高田公園でお花見をして、学生時代に花見山公園で花見をしたことを思い出しました。

さて、これまでの経歴を簡単に紹介させていただきます。私は看護師として、脳神経外科病棟や消化器内科と内分泌内科の混合病棟、精神科急性期病棟での病棟勤務を経験し、訪問看護部門の立ち上げにも携わらせていただきました。その後は、保健師資格を生かして看護専門学校での教育を経て、現在は大学での教育に携わらせていただいております。

臨床経験を振り返ると、それぞれの病棟でさまざまな経験をしてきたと思います。脳神経外科では、手術前・後の看護からリハビリテーション看護まで、内分泌内科では糖尿病などの日常生活で管理を必要とする患者への指導を学びました。さらに、精神科では、患者を取り巻く家族や社会環境の厳しさを知りました。訪問看護では、あらゆる年齢、あらゆる疾患を持つ人の療養生活を支えるためには、看護師以外にも医師や薬剤師、ホームヘルパー、市町村の福祉担当者など、数多くの人々と関わって、一人の療養生活を支えることができることを経験しました。特に、訪問看護の多方面の観察内容や思考過程に面白さを感じ、在宅看護を専門として、教育や研究をしています。現在の研究テーマは、訪問看護ステーションの運営や終末期ケア、独居者の生活を支えるケアです。研究で得られた知恵を、学生をはじめ、保健・医療・福祉の関係者、さらに市民の方々と共に共有してまいりたいと思っております。

まだまだ、至らぬ点は多々あるかと思いますが、皆様のお力をお借りして頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

新任教員 紹介



はじめまして。この4月より成人看護学領域に配属となりました坂田智佳子と申します。

私は本学を6期生として卒業しました。卒業校である本学で働かせていただくと、卒業時には想像もつきませんでした。しかし、臨床で看護を行っていく中で自分自身の夢・目標が見つかり、ここに戻ってこられたことにとても御縁を感じております。また私だけではなく、卒業生が大学院生や教員として本学に戻ってきているとお話を伺っております。

やはり、それだけの魅力があるからこそだと感じております。

私は卒業後、この3月まで上越市内の病院に勤務しておりました。臨床では呼吸器内科、神経内科の病棟に携わっており、主に肺がんや慢性閉塞性肺疾患、肺

炎、神経難病、脳血管障害等の患者様と関わらせていただきました。呼吸機等が必要な急性期から、退院支援を必要とする慢性期の患者様の看護を経験してきました。併せて、新人教育や臨床講師といった、新人看護師、看護学生の教育・指導にも携わりました。そして、教育・指導とは何か、学んでもらうためにはどのような関わりがよいかを考えさせられました。臨床で得た知識・経験を自身の強みとしながら、本学での指導にあたりたいと考えております。

現在、成人看護学演習と成人看護学実習、総合実習を担当しています。臨床では使用していなかった知識を呼び起こし、勉強しながら演習にあたっております。学生と関わり、演習を重ねることに成長している学生の姿を見ることが喜び、やりがいになっております。実習指導はこれからですが、楽しさややりがい等を感じてもらえるよう、臨床講師、教員の力をお借りしながら、学生をサポートしていきたいと考えております。

最後になりますが、一日でも早く業務に慣れ、教職員の皆様の力になりたいと考えている所存です。併せて、学生と一緒に日々学び、日々成長していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



はじめまして。4月より成人看護学領域の助手としてお世話になっております相澤達也と申します。

私は、本大学の第5期生として卒業したあと、6年間新潟労災病院で勤務いたしました。もともと興味のあるがん領域の看護に臨床で携わり、様々な患者様との出会いから、多くの経験をさせていただくとともに、学ばせていただきました。まだまだ臨床でやり切ったとは言い難いと思っておりますが、今回成人看護学領域助手として着任いたしまして、教育、研究の分野で貢献していけたらと考えております。

講義や演習で日々学生たちと関わると、またあの頃に戻りたいなと自分の大学生活を思い出し懐かしく感じます。日々の学習や実習など、楽しいことばかりではなかったかもしれませんが、友人達と支え合い過ごした日々は私にとって宝

物となっています。また、卒業後も友人達とはお互いに情報交換し、刺激し合いながらそれぞれの臨床の場で成長できたと感じています。そして友人だけでなく、新潟県立看護大学卒業生の先輩、後輩の繋がりもでき、大学で過ごしたという財産が、様々な形となって今の私の支えとなっています。

男子学生を見ると、あの頃の自分を見ているようで「勉強しなさい」と言いたいような「もっと楽しみなさい」と言いたいような、なんとも言えない気持ちになっている今日この頃ですが、学生には今しかできないこと、今やるべきことを自分で判断して後悔のないように過ごしてもらえればと思います。勉強したいと思うとき、必要に駆られるときは必ず来ると思います。そのときに、自分の力で勉強できるよう、考える力を育てられるように教員として学生に関わっていきたくて考えています。

至らない部分が多々あると思いますが、教職員の皆様のお力添えをいただきながら、日々努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。



昨年の6月より精神看護学、今年の4月より成人看護学の実習助手としてお世話になっております、棚橋ひろみです。以前に配属された老年看護学をはじめ、教職員の皆様からご指導を頂きながら私自身学びを深め、微力ではありますがお役に立てるよう頑張りたいと思っております。

看護師としては病棟勤務で約10年間、中越沖地震後にこころのケアセンターで約1年半、地元柏崎市で勤務しておりました。看護大学で実習助手に携わらせて頂く

きっかけになったのは二男の病死でした。闘病生活は約1年でしたが、患者家族としての立場や感情を経験し、自身の看護観などを見つめなおす日々でもありました。免許を取得してからも学びの多い職業でありましたが、それを実感する中で看護教育の一端に携わる機会に恵まれ、演習や実習を通して学生が学び成長していく一助となれるよう努めたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

実習助手 紹介



私は、4月より母性看護学の実習助手として着任しました巴亦(みまた)麻子と申します。

実習助手は主に、学生が臨時実習において、学内で学んだ知識・技術を統合し、受け持ち患者さんに安全・安楽に看護を提供出来るように教員の先生方の補助をします。その前段階としての学内演習では、看護

技術や看護過程の展開など、実習に向けての学びの補助をしています。久しぶりに演習や実習場面に接し、学生の新鮮な気付きや発想に感動しています。

私は、昨年まで新潟市内の病院に勤務していました。産婦人科を中心に、小児科・内科の患者様のケアや手術の間接介助、分娩の間接介助の経験があります。医療現場で学んだことを活かし、教員の先生方の指導を受けながら、学生さんたちが臨床実習で多くの学びが得られるように、学生さんたちと関わりたいです。年齢が学生さんと近いことを活かし、一緒に学んでいきたいと考えています。どうぞ宜しくお願ひ致します。

看護大学の 力強い応援団、 振興協力会!!



本学が地域とのさまざまな連携と協力を推し進め、より地域に根ざした大学となることを願ひ、それを支援する目的で平成26年7月に「新潟県立看護大学振興協力会」が設立されました。

平成28年5月末現在、100名弱(法人会員:55社、個人会員:40名)の皆さまが会員となり、本学の力強い応援団になっていただいております。

振興協力会から、本学の教育活動や研究活動へ支援いただいております。今回、教育備品として筋肉注射のシミュレーター等を入れていただきました。これらの備品を有効活用し、手技等を着実に身につけられるよう願ひしています。

このほか、ベトナムでの国際交流活動にもご理解とご支援をいただいております。



事務局 新職員の紹介



はじめまして。この4月に総務課庶務係に配属になりました。主に上越地域の県の機関で勤務してきましたが、看護大学での勤務は初めてとなります。

庶務係の仕事は、建物・設備の維持管理、人件費や共通経費の支払い、秘書業務など、大学の基本的な事務を担っています。入学式や卒業式の準備なども行っています。

初めて携わる業務ばかりで大学特有の仕事の進め方もあり、日々、周りの方々に助けられながら仕事をしています。

まだまだ戸惑うことも多く緊張の連続ですが、1日でも早く業務を覚えて大学のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

よろしくお願いいたします。



この春の異動により教務係長を命ぜられました岡本と申します。本籍とお墓は東京なのですが、自宅は上越市内にあり、何十年前に上越教育大学を卒業していますので「上越人」を自負しています。

実は私、本学が短期大学から四年制大学へ移行する時にも教務係でお世話になっていました。もちろん当時も立派な学校だと思っていましたが、その当時と比べても施設や設備の拡充だけでなく、組織・運営体制も格段に整備されており、学生並びに保護者、関係諸機関から御支援いただけている大学だということを感じています。

この度初めて係長という職を拝命し、身にあまる重責ではありますが、一意専心、新潟県立看護大学の更なる発展に少しでも役立てるよう努力する所存です。何卒、皆様から御指導を賜りますよう、お願い申し上げます。



はじめまして。4月1日付けで庶務係に配属になりました。杉田と申します。この3月までは県立柿崎病院に勤務していました。生まれも育ちも上越で、過去勤務した職場も上越が多いのですが、看護大学勤務は初めてであり、赴任早々窓から見えた校庭の桜、残雪の美しい妙高山と大変恵まれた環境の中で働ける事に感謝しております。

庶務係は大学運営の下支えをする部署のため、業務内容は非常に多岐に渡っており、慣れない中日々悪戦苦闘しております。学生の皆さんと直接接する機会は少ないかと思いますが、皆さんが充実した大学生活を送れるよう、また先生方が教育・研究活動に専念出来るように、一刻も早く業務に慣れ庶務係の一員として微力ながら努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



4月より図書学生係で勤務させていただいております阿部優佳です。私は県内の出身で、大学卒業後は、3年ほど事務職の仕事に就いており、この度縁がありましてこちらにお世話になることになりました。また、今回、初めて上越に住むことになりました。4月に来たばかりの頃、家族で高田公園の夜桜を見に行きましたが、想像以上に美しく、大変感動しました。上越市は、海や山に囲まれ自然が大変豊かな土地だと感じております。この地で新生活をスタートすることができ大変感謝しております。

私の日々の業務は、各種証明書発行、奨学金貸与、国家試験や就職関係等がメインとなっており、日ごろから学生のみなさんと接する機会も多くフレッシュな気持ちで業務に携わっています。今年1年目ということもあり、まだまだ不慣れな部分もありますが、充実した学生生活の実現のため、少しでもみなさまのお力になれるよう精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

科学研究費 採択状況

平成28年度科学研究費採択課題一覧

1 継続課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
平澤 則子	在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究(24~28年度)	基盤研究C
石田 和子	化学療法に伴う吃逆の統合支援マネジメントモデルの開発と有用性の検討(26~28年度)	基盤研究C
高柳 智子	脳血管疾患患者の移乗時見守りから自立へのプロセスを支援するケアプロトコルの開発(26~29年度)	基盤研究C
高林 知佳子	介護をしながら働く女性看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因と課題(26~28年度)	基盤研究C
境原 三津夫	性暴力被害者支援看護師を活用するための医療システムの構築(27~29年度)	基盤研究C
飯吉 令枝	豪雪地域の高齢者が自立した栄養・食生活行動を維持するためのサポートシステムの構築(27~29年度)	基盤研究C
徐 淑子	ハームリダクション時代の依存症ケア:日蘭の文化的差異をふまえた国際比較研究(27~29年度)	萌芽研究
北村 千章	22q11.2欠失症候群をもつ人々のためのケアガイドの理論的枠組みの構築(27~29年度)	萌芽研究
谷内田 潤子	新規糖尿病患者の未治療抑制に向けた糖尿病療養指導士による健診事後指導効果の検証(27~29年度)	若手研究B
水口 陽子	看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発(25~28年度) ※延長承認	基盤研究C
高島 葉子	助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「分岐」を意識した初期対応モデルの構築(25~28年度) ※延長承認	基盤研究C
山田 正実	COPD患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援する教育プログラム(25~28年度) ※延長承認	基盤研究C
河原畑 尚美	災害復興期における高齢者の健康上のニーズの経時的変化と支援方法に関する研究(25~28年度) ※延長承認	基盤研究C

2 新規採択課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
渡辺 弘之	ベトナムのハンセン病村に住む子どもたちの自立支援と社会的統合(28~30年度)	基盤研究C
岩永 喜久子	チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究(28~30年度)	基盤研究C



新潟県立看護大学が「どんな大学か？」を知りたい皆さんのために、オープンキャンパスを開催します。

例年、体験講義・演習や学長・在学生との懇談など、多彩なプログラムで実際に見て、聞いて、触れて、体験していただく内容となっています。

受験を間近に控えた高校3年生はもとより、社会人入学をお考えの方、保護者の方、看護系大学へ将来進学を考えている高校1・2年生も大歓迎です。ぜひご参加ください。

開催日時	平成28年8月5日(金)、22日(月) 各日とも11:00~16:00(受付は10:00から)
開催内容	体験学習ありのコース(じっくり体験したい方向け) ○大学・入試等の概要説明 ○資格取得説明……など <small>※体験学習なしのコースと共通の内容です。</small>
	○学長室訪問・在学生との懇談 ○体験講義・演習 ○施設見学 <small>※上記3つはコース別(A~F)に分かれて体験していただけます。</small>
体験学習ありのコース(じっくり体験したい方向け)	○個別相談 (入試、学生生活、奨学金、就職等)
	体験学習なしのコース(概要をつかみたい方向け) ○大学・入試等の概要説明 ○資格取得説明……など <small>※体験学習ありのコースと共通の内容です。</small>
申込方法	○個別相談 (入試、学生生活、奨学金、就職等)など
	事前予約が必要です(付添の方も予約が必要)。ホームページ、電話、FAXのいずれかでお申し込みください。 体験学習ありのコースについて 演習での安全確保のため、参加者は240名限定・先着順とします。また、コースは第1希望から第3希望までとりますが、ご希望に沿えない場合があります。 体験学習なしのコースについて 定員はありません。
申込期限	開催日の1週間前まで。希望者多数の場合、期限前に受付を終了する場合があります。
問い合わせ先	電話:025-526-2811 FAX:025-526-2815 E-mail:kyoumu@niigata-cn.ac.jp

※詳細は大学ホームページをご覧ください。<http://www.niigata-cn.ac.jp/>



本年度第1回目のいきいきサロンが5月19日(木)に行われました。「歯を『なおす』から『まもる』へ」というテーマで、羽尾歯科医院 春日山の羽尾博嗣院長先生にお話しいただきました。論文のデータに基づいた確かな情報をふまえながら、歯周病予防の大切さを大変わかりやすく教えていただきました。

8月以降のいきいきサロンは、以下のような日程になっています。皆様も日々をいきいきと過ごすためのヒントを得るために、是非お越し下さい。



日時	テーマ	講師
9月15日(木) 18:30~19:30	人と人のつながりがみんなを元気に	新潟県立看護大学 地域看護学 講師 井上智代
10月20日(木) 18:30~19:30	見て学ぼう皮膚の病気 ~どういった時に皮膚科を受診したらいいのか?~	わか皮ふ科クリニック 院長 石田和加先生
11月17日(木) 18:30~19:30	ストレス ~「スタンフォードのストレスを力に変える教科書」の紹介~	柏崎厚生病院 精神科医長 川村剛先生



〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編集
後記

新年度を迎え、学生もさまざまな場面で交流を深めています。29号では本学の巣立ちや新たな学生の活躍を期待してまとめました。新職員も新たに加わり新体制で頑張る姿がお届けできればと思っています。

入試・広報委員：川島良子